高校 タイ王立科学高校との科学・文化交流プログラム 本校で「サイエンスフェア」を実施

タイ王国「プリンセス・チュラポーン科学高校・ペッチャブリー校」（以下、PCSHS-P）とは、2013年度より、科学交流を主軸とした生徒・教員の相互派遣を毎年行っています。

6月10日～16日の7日間、PCSHS-Pから教員4名、生徒13名が本校を訪れ、理数キャリアコースの生徒170名全員と交流する「サイエンスフェア」に参加しました。今回の交流で、本校の生徒たちは学年ごとに異なる役割を担いながら、充実した時間を過ごしました。

▲本校の「BAL3」教室で行われたサイエンスフェアでのポスター発表

高校2年生は、PCSHS-Pの生徒とバディを組み、ほとんどのプログラムを共に体験する中心的な存在となりました。高校3年生は、6月14日に開催されたサイエンスフェアのメインイベントである研究発表会にて、全員が英語で研究成果を発表し、日頃の学びを堂々と披露しました。高校1年生は、事前の歓迎準備や特別授業への参加を通じて交流を支え、全体の雰囲気づくりに貢献し、次年度以降の交流の基礎を固めました。

PCSHS-Pの生徒たちは、サイエンスフェア期間中、本校生徒の家庭にホームステイし、6月15日にはそれぞれの家庭独自の温かいもてなしを受けました。異文化の中で過ごす時間は、言葉や習慣の違いを超えて、互いの理解を深める貴重な機会となりました。

交流期間中には、両校教員による英語での情報・理科の授業や、本校教員による日本語の特別授業が行われました。また、サイエンスクッキングや文化交流、着付け体験、東邦大学での実験・講義、葛西臨海水族園や日本科学未来館の見学、お台場観光など、多彩な活動が展開されました。さらに、両校による課題研究発表も行われ、互いの探究心や成果を共有する場となりました。

▲東邦大学でのイカの解剖実験

▲本校の家庭科室で行われたサイエンスクッキング

これらの活動を通じて、科学への関心を深めるとともに、国際的な視野を広げ、異文化理解と友情を育むことができました。今年度の交流も、大盛況のうちに無事終了しました。

大学 「アニメ×経営学」経営学部主催トークイベント開催

7月12日、経営学部は本郷キャンパスにて『ビジネス×コンテンツ＝未来をプロデュースせよ』と題したトークイベントの第1弾として、「アニメ×経営学：ヒットの構造と仕掛けを解き明かす」を開催しました。

アニメ業界の第一線で活躍する櫻井大樹氏（株式会社サラマンダー）と井上孝史氏（日本アニメーション株式会社）が登壇し、ヒット作の裏側にある戦略や意思決定を経営学の視点から紐解きました。

司会は吉田尚記アナウンサー（ニッポン放送）が務め、本学経営学部の平田博紀経営コミュニケーション学科長・教授との対話を通じて、クリエイティブとマネジメントの接点を探る内容となり、アニメ制作の現場で求められる資金調達や企画力、経営戦略など、実務に即した話題が展開され、参加者からは「ビジネスとしてのアニメの世界を深く理解できた」「好きを仕事にすることを考えていきたいと思う」等の声も聞かれました。コンテンツビジネスに関心のある学生や業界関係者にとって、学びと刺激に満ちた時間となりました。

尚、本トークイベントシリーズの第2弾は、10月18日（土）の文京祭（本郷キャンパス）で開催予定です。ご期待ください。

登壇者右から平田教授、井上氏、櫻井氏、吉田アナ▶

中高 芸術鑑賞会で舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』を観賞

6月5日、TBS赤坂ACTシアターにて、芸術鑑賞会が実施されました。今年度は、ロングラン公演中の話題作である舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』を中高生全員で観賞しました。豪華なキャストと最新の舞台演出が注目されている作品で、観賞前から大きな期待が寄せられていました。

学校では事前に図書館にて『ハリー・ポッター』関連の展示を行い、原作本の貸し出しやDVDの観賞ができるよう準備されており、生徒たちは当日を心待ちにしていました。

会場周辺はハリー・ポッターの世界観が表現されており、入場前からワクワクするような雰囲気に包まれていました。舞台は、原作シリーズ終了から19年後の世界を描いており、父親となったハリーとその仲間たち、そして彼らの子どもたちの物語が展開されます。

魔法が散りばめられた演出には歓声が上がり、俳優の真剣な演技に引き込まれ、あっという間の3時間となりました。観賞後は「楽しかった！」「怖かった…」「あれ、どういう仕掛け？」など、口々に感想を語りながら帰路につく生徒たちの姿が見られました。

中間試験や体育祭などで忙しかった生徒たちにとって、ご褒美のような、心に残るひとときとなりました。

舞台の世界観溢れるシアター周辺

特集 注目のトピックス

Topic 01 5月31日・6月7日 大学
子育て・教育公開講座「子どもの居場所づくり」全2回開催
人間学部 木村浩則教授、木村 学教授 @ふじみ野キャンパス

木村浩則教授

木村学教授

Topic 02 6月14日 大学
「第4回 韓国語能力試験（TOPIK）フォーラム」で外国語学部 新井保裕准教授が登壇 @立教大学 池袋キャンパス

写真提供：公益財団法人韓国教育財団

Topic 03 7月2日 大学
海外短期フィールドワーク、インターンシップ生受入プログラムの協定締結校 アメリカカブリオ大学から Michelle Chao教授（幼児教育学部所属）を招聘し、講演会を開催 @ふじみ野キャンパス

Topic 04 7月5日 大学
人間学部島田栄子教授が一般社団法人SST普及協会より「功労賞」を受賞

Topic 05 7月7日～11日 大学
「まちづくり研究センターふじみ野」で活動する学生による、地域に存在していた「陸軍火工廠」を伝える展示・ギャラリートークを企画・開催 @ふじみ野ステラ・ウェスト

Topic 06 7月8日 大学
人間学部心理学科卒業生 ホラー小説家、堀井拓馬氏が「人間の執着」をテーマに心理学科の授業内でミニ講演会開催 @ふじみ野キャンパス

tomoちゃん（ひたむき・まえむき・おもむき）

第98回
画：美術部（高校）Y

令和7年（2025年）
08月31日
第 809号
発行
学校法人文京学院
https://www.bgu.ac.jp

文京学院

〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学院
文京学院大学外国語学部・経営学部・人間学部・保健医療技術学部／大学院
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校
文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301

高校 バレーボール部 インターハイ出場！

8月5日～ 9日、岡山県で開催された「令和7年度 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）」に、本校バレーボール部が2年ぶり7回目の出場を果たしました。

東京予選を突破した後、全国の舞台に向けて部員たちは懸命に準備を重ねました。直前まで続いた合宿では、全国大会常連校との練習試合を通じて、技術だけではなく、仲間との絆やチームとしての結束力を深めていきました。

予選グループ戦では、日頃から交流のある京都橘高校と対戦。今年3月には本校に遠征に来てくださったご縁のある学校です。事前合宿では3勝3敗と互角の戦いを繰り広げており、本番も一瞬たりとも気の抜けない厳しい試合となりました。それでも、3年生を中心としたチームの団結力が勝利を引き寄せました。

決勝トーナメントでは、2回戦で愛知県の豊川高校に勝利。続く3回戦では、地元・岡山県代表の就実高校と対戦しました。会場には地元と本校の大応援団が集まり、選手たちの一つひとつのプレーに温かい拍手と声援が送られました。その空間は、まさに青春の輝きが詰まった、かけがえのない舞台でした。

結果は惜しくも「ベスト16」で大会を終えることとなりましたが、遠方にもかかわらず多くの方々が応援に駆けつけてくださり、生徒たちにとって何よりの力となりました。悔しさの中にも、確かな成長と感謝の気持ちが残る大会となりました。

この経験を胸に、10月から始まる春高予選では、再び全国の舞台に立てるよう、部員一同、心をひとつにして挑戦してまいります。応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

PHOTO GALLERY フォトギャラリー

インターハイ試合結果

- 予選グループ戦
  本校 vs 京都橘高校（京都府）
  2（25-19 28-26）0
- 決勝トーナメント
  2回戦 本校 2（25-17 25-21）0 豊川高校（愛知県）
  3回戦 本校 0（25-27 25-27）2 就実高校（岡山県）

主将・横溝采美さん（3杉）コメント

インターハイを通して、初めて対戦する相手への対応力、自分たちと同じくらいまたは自分たちよりも強い相手に勝つ力がないと感じることができました。インターハイは悔しい思いで終わってしまいましたが、それ以上に今回の負けから多くの課題が見つかり、次の春高予選に向けての目的意識が一段と上がる大会となりました。

そして、今回インターハイ前には合宿をさせていただきました。色々な方の力を借りてチームが万全な状態でインターハイに出場できたことにとても感謝しています。また、岡山県まで駆けつけてくれた保護者、先生方、配信を見て応援してくださった方々が楽しめるよう、自分たちが1番楽しんで試合することが出来ました。応援してくださった方々、本当にありがとうございました。

もう一度全国の舞台、春高で最高のプレーができるように、今まで以上に努力し、感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきます。これからも応援よろしくお願いいたします。

中学 バレーボール部 今年も全国大会で健闘

今年は東京都大会を6位で突破し、8月7日～9日、高崎アリーナで開催された「第60回関東中学校バレーボール大会」に出場しました。本大会では3連覇を目指して奮闘しましたが、準決勝で惜しくも敗れ、「第3位」という結果となりました。

そして8月17日～20日に長崎県で開催された「第55回全日本中学校バレーボール選手権大会」には、5大会連続・通算30回目の出場を果たしました。予選グループ戦を突破し、決勝トーナメントへ進出しました。

決勝トーナメント2回戦では、昨年の準決勝でも対戦した長崎県の諫早中学校と再び対戦。地元の大応援団を背に躍動する相手に第1セットを奪われ、第2セットも中盤で引き離されましたが、終盤には意地を見せて追いつきました。惜しくも敗れはしましたが、3年生を中心にチームが一丸となって踏ん張る姿が印象的でした。

第55回全日本中学校バレーボール選手権大会

- 予選グループ戦
  本校 2（23-25 25- 6 25-13）1 鳥取中学校（北海道）
- 決勝トーナメント1回戦
  本校 2（25-21 22-25 25-21）1 新庄中学校（富山）
- 決勝トーナメント2回戦
  本校 0（18-25 23-25）2 諫早中学校（長崎）

主将・横溝仁美さん（3桃）コメント

チームメイトや保護者の皆様、指導者の先生方の支えがあって、全国大会までたどり着くことができました。悔しい結果にはなりましたが、最後の試合では、これまで自分たちが積み重ねてきたことがすべて現れたと思います。

試合は厳しい場面の連続でしたが、下級生にも助けられ、最後まで戦い抜くことができました。文京（中学）では引退がないので、全国大会が終わっても高校に上がるまでの準備期間があります。今大会で味わった悔しい思いを二度としないために、時間を無駄にせず努力を続け、高校バレーの世界でも頑張ります。

応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

大学 後輩に伝える体験談「てっぺんフォーラム」開催

ふじみ野キャンパスでは６月28日、本郷キャンパスでは７月２日に「てっぺんフォーラム」が開催されました（ふじみ野キャンパスはオンライン開催）。上級生が下級生に向けて、さまざまな体験や想いを伝えることで、毎年多くの学生が「スイッチ・オン」し、それぞれの「てっぺん」に向けて邁進。

今年も同実行委員会メンバーと発表者が協力し合い、充実したフォーラムを実現しました。

ふじみ野キャンパス

学生実行委員長

江口未優
人間学部
心理学科３年

学生実行副委員長

佐藤夢里菜
人間学部
心理学科３年

１年生を対象に、各学科の先輩方による講演イベント「てっぺんフォーラム」を開催しました。入学から約３ヶ月が経ち、大学生活にも少しずつ慣れてきた頃かと思いますが、今回のフォーラムでは、これからの学生生活をより充実させるためのヒントが詰まった内容となりました。

発表者は２年生から４年生の先輩たちで、大学生活はもちろん、サークル活動、委員会活動、課外活動など、実際の経験をもとに幅広く語っていただきました。講演は事前に録画した映像を配信する形式で行われ、撮影時には和気あいあいとした雰囲気の中にも、真剣に伝えようとする姿勢が随所に見られ、非常に内容の濃いものとなりました。

配信後のアンケートでは、１年生から「スイッチが入った」「これからの大学生活の参考になった」といった声が寄せられ、充実したイベントとなったことを実感しています。

オンライン配信の様子

てっぺん賞

- 小野寺慎市（人間学部心理学科２年）「努力と挑戦」
- 本間富士子（大学院人間学研究科２年）「大学生活でがんばったこと」
- 団体：チーム OT
  木村 憩、田中理翔、千葉空弥、時崎陽菜、長嶋佑奈（保健医療技術学部作業療法学科２年）
  「OT学科で充実した大学生活を送るためには」

スイッチ・オン賞

- 伊藤晃典（人間学部心理学科４年）「大学生活を無為に過ごさないためには」
- 緒方 茜（保健医療技術学部臨床検査学科４年）「学問のすゝめ ～楽しい大学生活を送るために～」
- 団体：まちラボ
  竹川昴槻、奥村藍瑠、小早川武史、和田城太郎（人間学部コミュニケーション社会学科４年）
  小野崎 凱（同２年）
  「『面白い』は『カタチ』にできる！」
- 佐藤岳夢（保健医療技術学部理学療法学科３年）「Muscle Project」

本郷キャンパス

学生実行委員長

村上魁紘
経営学部
マーケティング・
デザイン学科３年

学生実行副委員長

細田龍吾
経営学部
経営コミュニケーション
学科３年

今年のスローガンは、「努力の軌跡が、未来を照らす」に決定しました。この言葉には、日々の積み重ねがやがて自分だけの道となり、その道が未来を明るく照らしてくれる――そんな思いを込めています。小さな努力の積み重ねが、確かな成長へとつながることを、私たちは信じています。

今年度は、計５組の皆さんに仁愛ホールにて発表していただきました。どの発表も、先輩方の経験や挑戦が詰まった素晴らしい内容で、聞いている私たちにも多くの気づきと刺激を与えてくれました。

特に１年生の皆さんには、今回の発表を通して「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」を意識するきっかけにしてほしいと思います。

今の努力が、未来の自分を形づくる大切な一歩になるはずです。

当日の会場の様子

てっぺん賞

- 井上司彩（経営学部経営コミュニケーション学科４年）「挑戦の連続から掴んだ内定」
- 団体：ひとみんちーむ
  大塚愛尋、宗像剛志、山本悠大朗、渡邉 萌（経営学部経営コミュニケーション学科４年）
  「未来を味わうビジネスを考えた日 ～ひとみんプロジェクト～」
- 坂井優星（経営学部経営コミュニケーション学科４年）
  「何者でもなかった僕が、“やりすぎた”話」

スイッチ・オン賞

- 団体：FW スタディケーション
  池戸彩花、関 健斗（経営学部経営コミュニケーション学科３年）
  宮川拓己、後藤陸翔（同２年）
  二宮果凛（経営学部マーケティング・デザイン学科２年）
  「スタディケーションを通じた地域と自分の再発見」
- 上野朝香（外国語学部英語コミュニケーション学科４年）「"続ける"ことで見つけた、私の居場所」

大学 本郷・ふじみ野キャンパス合同「スポーツ大会」開催

5月31日、本郷キャンパスの体育館にて、学生自治会（本郷）と学生会（ふじみ野）の共同主催による「スポーツ大会」が開催されました。

本イベントは、両キャンパスの学生間および他大学との交流を目的として企画され、バスケットボール・バレーボール・バドミントンのほか、綱引きやチャンバラ合戦など、スポーツが得意でない学生も楽しめる種目が実施されました。

文教大学、東洋学園大学、大東文化大学など6大学から42名が参加し、本学学生と合わせて総勢111名が集いました。チームは所属大学に関係なくシャッフル編成され、初対面の学生同士が協力しながら熱戦を繰り広げました。

昼休みにはB'sDiningでお弁当を囲みながら交流を深め、競技ごとの勝ち点を集計して総合優勝チームを決定。閉会式では優勝チームに景品が授与されました。

この大会は、今後も学生が主体となり、本学の新たな伝統行事として継続していきます。

PHOTO GALLERY
フォトギャラリー

大学 「ブレーメンズ」×老舗茶屋「松澤園」「こども店長」イベントで地域振興

８月３日、「第71回上福岡七夕まつり」（埼玉県ふじみ野市）の特別企画「お茶で楽しむ・つながる 上福岡七夕祭り」にて、本学の東日本大震災復興支援団体「ブレーメンズ」に所属する経営学部生９名が、老舗のお茶屋「松澤園」（ふじみ野市）と連携した多世代交流イベント「お茶屋のこども店長」を開催しました。

本イベントは、昨年松澤園が実施した同イベントを学生が支援したことをきっかけに、今年は学生が企画段階から参画。地域貢献の一環として、地域の子どもたちがお茶屋の店頭に立ち、接客やレジ業務を体験しながら、一言の挨拶や声掛けのやりとりから始まる多世代交流を経験してもらい、“働く喜び”と” ふるさとの味 “を感じてもらうことを目的としています。

尚、「ブレーメンズ」の学生たちは、2017年から継続的に松澤園の店頭でチャリティグッズの販売を実施してきました。今回もグッズ販売を同時開催し、売上金額は全て各地の災害義援金として寄付します。

▲当日活動するブレーメンズメンバー

今回のイベントは、学生たちにとって地域との絆をさらに深める貴重な機会となり、地域の温かい協力のもと、大盛況のうちに幕を閉じました。

▲こども店長をサポートする学生

映画情報

『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』

2025年10月24日（金）より全国公開

原案書籍の電子版販売開始

映画の原案となった書籍『信用はデパートで売っていない－教え子とともに歩んだ女性の物語－』が、7月8日よりAmazonにて電子書籍として販売開始となりました。教育の原点に触れる一冊として、ぜひご一読ください。

▲Amazon

本予告と主題歌公開

映画の最新予告映像や主題歌などの続報が公開となりました。主題歌はJ01の『ひらく』で、シンガーソングライターの秦 基博氏が楽曲提供を行っています。今後の情報は本学の100周年サイトで発信していきます。

予告映像▼

100周年サイト▼

中学 幼稚園 オーケストラ パシフィックフィルハーモニア東京による弦楽四重奏が出張授業

2024年、本学院は一般社団法人パシフィックフィルハーモニア東京（理事長：吹浦忠正）と連携協定を締結し、音楽を通じて文化芸術の振興とウェルビーイングの促進を目指す取り組みを進めてきました。

中学校での出張授業

本学院では、パシフィックフィルハーモニア東京と共に、心に響く音楽に触れる機会を通して、子どもたちの豊かな感性や情操を育むとともに、地域社会への貢献にも力を注いでいます。

その一環として、６月には文京学院大学女子中学校１年生の音楽の授業において、弦楽四重奏の出張授業が行われました。授業は「ヴィヴァルディ／四季より『春』第１楽章」がまず演奏され、場面ごとに音楽が描く情景を思い浮かべながら生徒たちは聴き入っていました。各楽器の紹介の後には、『浜辺の歌』を生演奏に合わせて歌唱し、さらに数曲を鑑賞するなど、音楽の魅力を存分に味わえる充実した時間となりました。

また、７月には文京学院大学文京幼稚園にてコンサートが開催され、園児たちが鑑賞しました。園児からは「いつから楽器を習っているのですか？」「好きな音楽は何ですか？」といった質問が寄せられ、楽しく歌う時間もあり、生の演奏に触れる貴重な機会となりました。

幼稚園ホールでのコンサート

中高 カラーガード部 関東大会「金賞」、Japan Cup「第3位」

7月20日、埼玉県の彩の国くまがやドームにて開催された「関東カラーガードコンテスト2025」に、中学2年生から高校2年生までの部員18名が出場しました。テスト終了後の限られた期間の中、猛暑にも負けず演技を細部まで磨き上げ、「金賞」を受賞することができました。

また、8月10日に京王アリーナTOKYO（武蔵野の森総合スポーツプラザ）で行われた「Japan Cup 2025」では、カラーガード部門にて「第3位」に入賞しました。連日大学の体育館（メセナ）を借りて練習に励み、社会人チームも参加するこの大会で「第3位」という結果を残せたことは、大きな自信につながりました。

今後は、9月の大会に向けて合宿を行い、より良いパフォーマンスを目指して演技の細部をさらに磨いていきます。また、10月の文女祭では、生徒たち自身が演技を創り上げ、皆さまに披露する予定です。より良い演技ができるよう精進してまいりますので、引き続き温かいご声援をよろしくお願いいたします。

カラーガード部
メンバー

中高 吹奏楽部 東京都高等学校吹奏楽コンクールで「銀賞」を受賞

8月13日、府中の森芸術劇場にて開催された「第65回東京都高等学校吹奏楽コンクール」において、本校吹奏楽部がB組に出場し、「銀賞」を受賞しました。

今年度の吹奏楽部は、高校生7名・中学生21名による編成で、春に入部したばかりの新入部員も多く在籍しています。楽器経験の浅い部員もいる中で、目標としていた「銀賞」を獲得することができました。

演奏を支えたのは、コンクール経験を持つ2・3年生の成長です。昨年に比べて音楽表現の幅が広がり、音程や音形、フレーズの細部にまでこだわる姿勢が演奏の質を高めました。単に音を奏でるだけでなく、音楽としての完成度を追求する姿勢が、審査員の評価につながったと考えられます。

吹奏楽部は現在、部活動改革の3年目を迎えています。今回の受賞は、これまで部の基盤を築いてきた、そしてコンクール当日にも支援をしてくれた先輩部員の支えがあってのものです。部員一同、感謝の気持ちを胸に、これからも音楽に真摯に向き合い、より良いバンドを目指して活動を続けてまいります。ご協力いただいた保護者の皆様、応援してくださった先生方、職員の皆様、生徒の皆さんに、心より御礼申し上げます。

なお、コンクールで演奏した『コタンの雪』をはじめ、さまざまな楽曲を10月に開催される文女祭にて披露する予定です。ぜひ文女祭にお越しいただき、演奏をお楽しみください。

演奏の様子

吹奏楽部のメンバー

中学 新体操部 関東大会で奮闘！

7月23日・24日、中学新体操部は練馬区光が丘体育館で開催された「東京都中学校総合体育大会 兼 関東中学校新体操東京都予選」に出場し、団体競技の部で見事「第3位」に入賞。目標としていた関東大会への出場を決めました。

そして8月5日～7日には、エスフォルタアリーナ八王子で行われた「第56回関東中学校新体操大会」に出場。今年は地元・東京開催ということもあり、出場選手だけでなく、中学1年生と高校生全員が大会役員として参加しました。

3年連続で東京都代表となった本校は、東京都体操協会の強化練習会にも参加。各大会で審判を務める先生方から演技チェックや踊り方のアドバイスをいただき、都大会以上の演技を目指して練習に励んできました。

大会会場は都大会でも使用される場所であり、特別な緊張感はありませんでしたが、交換技の投げ方や受け方に不安を残したまま公式練習を終えることとなりました。出番直前まで何度も交換技を確認し、いよいよ本番へ。今年のチームは本番に強く、緊張で演技が小さくなることはありませんでしたが、関東大会だけは別物でした。何でもない場面でフープが手から離れ落下した瞬間、全員の緊張の糸が切れてしまい、動揺が広がり、大きなミスにつながってしまいました。

東京都の大応援団の声援の中、力を出し切れないまま大会を終えることとなりました。この悔しさを胸に、1・2年生は来年の関東大会4年連続出場を目指し、また一から努力を重ねていきます。

新体操部メンバー